

製作の喜びを味わい、生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成  
—第6学年「エンジョイ！ソーイング～マイ防災バッグを作ろう～」の実践を通して—

西条支部

1 研究の視点

- (1) 課題解決に向けて教え合い、話し合い、考えを深め、学び合う活動の工夫
- (2) 継続的な実践を促す工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 エンジョイ！ソーイング～マイ防災バッグを作ろう～

- (2) 目標

- 布を用いた生活に役立つ物に関心を持ち、これまでに身に付けた技能を活用して製作し、生活に生かそうとする。
- 使う目的に応じて、製作する物や製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりする。
- 安全に用具を取り扱い、手縫いやミシン縫いを活用して製作することができる。
- 製作に必要な用具、製作手順や縫い方、時間の見通し、用具の安全な取り扱いが分かる。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童（男子14名、女子14名、計28名）の多くは、「家庭科が好き」「楽しい」と感じており、授業にまじめに取り組んだり、友達と協力しながら作業を進めたりすることができる。しかし、製作に関しては、「上手にできない」「玉結びや玉どめが難しい」などの理由で3分の1程度の児童が苦手だと感じている。第5学年では、手縫いやミシンを用いた直線縫いについて、基礎的・基本的な技能の習得に重点を置いて学習し、フェルトの簡単な小物やトートバッグを製作した。現在、トートバッグは、ほとんどの児童が、音楽道具や月曜セット入れとして使うなど、進んで活用している。ところが、取っ手のひもがとれてしまっている児童もおり、長く活用することを見通して製作を工夫する必要がある。
- 本題材は、学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「C 快適な衣服と住まい」の(3)「生活に役立つ物の製作」に関連して設定したものである。本題材で製作するナップザックは、児童がよく使用しており、身近なものといえる。ここでは、形などを工夫し、布を用いて物を製作することを通して、布を用いた生活に役立つ物の製作に関心を持ち、製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、作る楽しさを実感し、日常生活で活用する能力を育てることをねらいとしている。また、総合的な学習の時間の防災学習と関連させ、「生活に役立つマイ防災バッグ」の製作を通して、作る楽しさや喜びを実感させ、日常生活で活用する能力を育てることができる題材でもある。
- 指導に当たっては、「マイ防災バッグを丈夫に作ろう」という目的に向かって、『①マイ防災バッグに入れる物を考え、大きさを決める。②しるしを付ける。③飾りを付ける。④ひもを通すための平ひもをはさみ、両わきを縫う。』といった学習を行う中で、自分たちで方法を考え、伝え合う「学び合い学習」を取り入れ、よりよい方法を考えながら製作に取り組ませる。また、5年生の時に製作したトートバッグを想起したり、給食袋などを観察したりして、自分たちで縫い方を考え、グループで話し合いをしながら、自分たちの手でマイ防災バッグが完成できるようにする。そうすることで、マイ防災バッグにより愛着を持ち、進んで災害に対する備えをしようとする気持ちや、作った物を生活に生かそうとする気持ちを高めたい。

本時は、前時に縫った両わきの次に、どの部分を縫ったらいいかを考え、仮製作することを通して、物を出し入れしやすくするために、口あきの必要性や縫い方を理解させる。まず、導入で、前時までの製作活動を振り返らせたり、完成している実物見本を見せたりすることで、活動への意欲付けを行う。その後、「物を出し入れしやすいマイ防災バッグにするために、両わきの次は、どこを縫うといいかな。」と課題を提示し、個人またはペアで給食袋やトートバッグなどの実物を観察しながら考えさせる。また、お助けカードや実物見本なども準備しておき、困った時に活用してもよいことを知らせておく。その後、考えた方法をグループの中で説明したり、友達の考えを聞いたりしながら、仮製作させる。グループでよく相談しながら作ることができるように、時間を十分確保したい。次に、どこを縫ったかをグループごとに書画カメラで映して紹介し合い、類似点や相違点を確認させることで、出し入れ口を縫う前に、縫わないといけなところ（口あ

き)に絞っていき、口あきの縫い方を考えさせる。その具体的な方法として、3種類の見本を提示し、最もよい縫い方はどれかについて全体での話し合いを進め、児童の考えを集約しながら、考えを深めさせたり共有させたりしたい。最後に、出し入れ口を縫う前に、口あきを縫う必要性や、縫い方について、各自でまとめさせることで、次時の活動や完成の見通しをもたせるようにしたい。

(4) 指導と評価の計画(全14時間)

時間	学習内容	評価規準・評価方法			
		関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
1	○ 布製品ウォッチングをしよう。 ・学習の課題を知る。 ・いろいろな布製品の大きさや形、縫い方の工夫を調べる。	身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心をもっている。(発表・ワークシート)			目的に応じた縫い方があることを理解している。(発表・ワークシート)
2	○ マイ防災バッグを製作する計画を立てよう。 ・中身を考えて大きさを決める。 ・製作手順を話し合う。 ・用具や準備について考える。 ・製作計画を立てる。		マイ防災バッグやその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(ワークシート・観察)		製作に必要な材料や用具が分かり、製作手順について理解している。(ワークシート・観察・テスト)
9 (本時その6)	○ 思いをこめてマイ防災バッグを作ろう。 ・布にしるしを付ける。 ・飾り(ポケット、縫い取り、ボタン、アップリケなど)を付ける。 ・平ひもをはさみ、両脇を縫う。 ・両わきの口あきを縫う。 ・出し入れ口を縫う。 ・ひもを通し、仕上げる。	製作に必要な材料や用具等を準備し、見通しをもって製作しようとしている。(観察) 製作する楽しさを味わいながら製作している。(発表・観察)	マイ防災バッグにふさわしい飾りを自分なりに工夫して付けている。(観察・ワークシート) 製作手順や製作方法について、考えたり、自分なりに工夫したりしている。(観察・ワークシート)	目的に応じて、手縫いやミシンを用いた直線縫いで製作することができる。(観察) 製作に必要な用具の安全な取扱いができる。(観察)	ミシンの基本的な操作が分かり、ミシンを用いた直線縫いの仕方について理解している。(観察・ワークシート・テスト) 製作に必要な用具の安全な取扱い方について理解している。(観察・ワークシート)
2	○ 発表交流会をしよう。 ・作ったマイ防災バッグを紹介し合う。 ・作品作りや使ってみての感想を発表し合う。		活用してみ、よかった点や、今後の工夫について考えている。(観察・発表・シート)		

(5) 本時の指導 (9/14)

ア ねらい

口あきの必要性や縫い方を理解する。

イ 準備物

実物見本、段階見本(写真)、お助けカード、書画カメラ、振り返りカード、パソコン

ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点◎評価
<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>2 両わきの次に縫うところを考えて、仮縫いする。</p> <p>(1) 個人やペアで考える。</p> <p>(2) グループで自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりして、縫うところをまち針でとめて、仮縫いする。</p> <p>(3) グループごとに発表する。</p> <p>3 口あきの縫い方を考える。</p>	<p>物を出し入れしやすいマイ防災バッグにするために、次は、どこをどのようにぬうとよいのだろう。</p> <p>○ 両わきの次は、どこを縫えばよいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食袋やトートバッグはどうなっているか見てみよう。</li> <li>・ひもを通すところ（出し入れ口）を縫ったらいいよ。</li> <li>・給食袋には、縫ってないところ（口あき）があるよ。どうしてかな。</li> </ul> <p>○ 個人やペアで考えた方法をグループの中で紹介し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこを縫ったらいいか分からなかったけど、友達の説明を聞いて分かったよ。</li> </ul> <p>○ 実際にまち針でとめて、縫おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しるしをつけたところを折ってまち針でとめよう。</li> <li>・出し入れ口のところに2つしるしがついているけど、どっちを折ったらいいかな。</li> <li>・物を出し入れしやすくするにはどうすればいいかな。</li> <li>・出し入れ口を縫う前に縫うところがあるのかな。</li> </ul> <p>○ どこを縫ったか紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出し入れ口を縫ったよ。</li> <li>・出し入れ口を縫って、ひもを通してみると、開け閉めがしにくかったよ。</li> <li>・実際に給食袋を見て、口あきのところを縫ったよ。</li> </ul> <p>○ 「口あき」の縫い方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ななめに開いていると見た目が悪いね。</li> <li>・縫うところは内側でも外側でもどちらでもよい気がするけれど。</li> <li>・内側だと縫ったところがぴらぴらするよ。</li> </ul>	<p>○ 製作手順を確認させ、本時の学習内容をつかませる。</p> <p>○ 縫い方を調べるために、既成の給食袋などをよく観察させる。</p> <p>○ お助けカードや実物見本なども見ながら、自分たちの手で、課題解決ができるように支援する。</p> <p>○ いろいろな考えを聞きながら、物を出し入れしやすい袋にするにはどこを縫うとよいのかを考えさせる。</p> <p>○ 考えがまとまったグループから、考えた方法で仮縫いをさせる。</p> <p>○ 途中で、よりよい方法が見つかったら、修正しながら進めていくようにさせる。</p> <p>○ 自分たちで縫ったところを紹介するために、書画カメラを活用し、分かりやすくする。</p> <p>○ 類似点や相違点を確認させ、物を出し入れをしやすくするために、「口あき」を縫うことを知らせる。</p> <p>○ 3種類の縫い方の見本（口あきのわきのぬいしろをななめに開いているもの、わきのぬいしろの内側を縫っているもの、わきのぬいしろの外側を縫っているもの）をパワーポイントを使って提示し、どの縫い方が最もよいのかを考えさせる。</p>

<p>4 本時の振り返りをして、次時の活動の確認をする。</p>	<p>○ 製作活動を振り返り、うまくできたことやできなかったことを「口あき」の言葉を入れながら書こう。</p>	<p>◎ 口あきの必要性や縫い方を理解している。 (知・理/ワークシート)</p> <p>○ ミシン縫いへの意欲を高め、次時の活動の課題をもたせる。</p>
----------------------------------	---	--

(6) 活動の実際

ア 課題解決に向けて教え合い、話し合い、考えを深め、学び合う活動の工夫

(ア) ペアやグループでの学び合いの場

本時は、まず、「物を出し入れしやすいマイ防災バッグにするために、両わきの次は、どこを縫うといいかな。」と課題を提示し、個人またはペアで給食袋やトートバッグなどの実物や写真を見て考えさせた。昨年作ったトートバッグは、出し入れ口が開いたままになっているということで、形の似た給食袋を見ながら考えていた。次に、考えた方法をグループの中で説明したり、友達の考えを聞いたりしながら、グループの意見をまとめた。それを実際に仮製作することで、確かめることができた。仮製作する布は、「しるしつけ」をする段階から、同じ布を使っていて、間違えても何度もやり直すことができるので、仮製作の布を使うことは、効果的だった。また、課題解決のために、十分な時間を確保したので、深まった話し合い活動ができたと思われる(写真1、2)。



<写真1 グループでの説明>

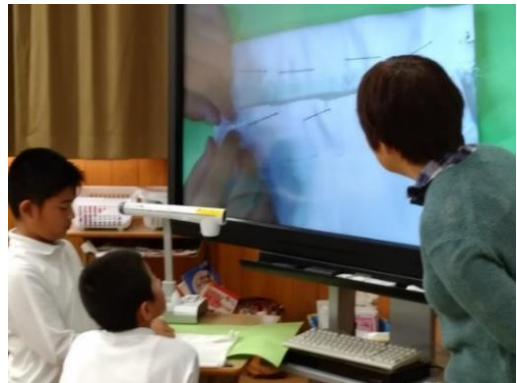


<写真2 仮製作>

(イ) 全体での共有の場

どこをどのように縫ったかをグループごとに書画カメラで映して紹介し合い(写真3)、全体で共有した。グループで練り合いや仮製作をしたことで、どのグループも自信をもって発表することができた。また、聞く側も、自分たちとの類似点や相違点を見つけながら聞くことができていた。

そこで、次の段階として、課題にある「物を出し入れしやすいマイ防災バッグにするために、出し入れ口を縫う前に縫わなければいけないところ(口あき)に目を向けさせた(資料1)。「口あき」の縫い方を考えさせるために、3種類の見本(資料2)を提示し、最もよい縫い方はどれかについて全体で話し合った(資料3)。全体での共有の場をもつことで、次時のマイ防災バッグの「口あき」を縫う時に、手際よく自信をもって縫うことができた。




<写真3 仮製作したものを発表する>

「わきの」次にはどこをぬうのかな？

↓

出し入れ口(ひもを通すところ)をぬう前に

**口あき**  
をぬいます



袋にはどうして **口あき** があるのかな？

↓

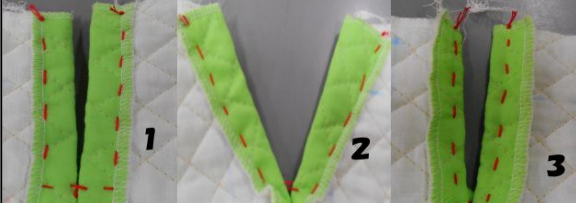
なくても使えるよ

↓

あったほうが  
**口が大きく開くよ**  
**物を出し入れしやすいよ**

〈資料1 「口あき」の説明〉

**口あき** のぬい方を考えよう  
どのぬい方がいいかな？ なぜ？




〈資料2 「口あき」の縫い方〉

**口あきどまりのぬい方のポイント**

- ・わきのぬいしろをしっかり開こう
- ・わきのぬいしろがななめにならないようにおろそう
- ・わきのぬいしろの外側をぬおう。
- ・わきのぬいしろ→口あきどまり→わきのぬいしろ

**コの字型にいきぬいぬおう。**

☆ミシンでぬうとよいじょうぶになるよ。



〈資料3 縫い方のポイント〉

イ 継続的な実践を促す工夫

西条市では、11年前から毎年、「12歳教育（防災教育）」に取り組んできている。そこで、玉津小学校の6年生が防災学習を進めていく中で、マイ防災バッグの必要性に気付き、準備することになった。ちょうど、家庭科の「エンジョイ！ソーイング」の学習で、布を用いた生活に役立つ物を製作することになっていたため、防災教育と関連させ、マイ防災バッグを作ることにした。

常に、「マイ防災バッグ」ということを意識しながら製作することができた（写真4、資料4）。完成後は、自分が考えた防災グッズをマイ防災バッグに入れて持ってきて、紹介し合った（写真5、6）。その後、家に持ち帰り、中身を見直したり、置き場所を決めたりして、活用することになった（資料5）。



〈写真4 完成したマイ防災バッグ〉

じょうぶで物を出し入れしやすいマイ防災バッグを作ること目標に、6年生83人が世界にたった一つしかないマイ防災バッグを考え、作りました。

まず最初に、袋の色を決めました。好きな色だけでなく、目立つ色なども考えて決めました。次に、何を入れるかを考え、外側や内側にポケットを付けたら、自分のだと分かるように名前を縫い取ったりしました。また、好きな飾りをつけたりもしました。そして、じょうぶさと使いやすさを考え、縫い方も自分たちで考えて縫い完成させました。

〈資料4 児童の感想〉



〈写真5 マイ防災バッグの紹介(グループ)〉



〈写真6 マイ防災バッグの紹介(全体)〉

マイ防災バッグに入れるものを紹介し合いました。



### どこに置くの？

玄関	自分の部屋	リビング
ろうか	車の中	クローゼット

☆ 避難する時に、一人一人がすぐに持ち出すことができるような場所を家族で相談して決め、置いておくようにするといいです。

#### 〈写真7 改良マイ防災バッグ〉

#### 〈資料5 防災バッグの置き場所〉

また、マイ防災バッグを紹介し合うことで、友達の工夫を知ることができた。よりよいマイ防災バッグにしていくために、布の種類やバッグの大きさなどを見直したり、ポケットを大きくし、区切りをつけたりするなど改良を加えた防災バッグ(写真7)を作ったり、家族一人一人の防災バッグを作ったりした児童もいた。更に、マイ防災バッグの製作を生かし、エプロンや水筒カバー、ランチョンマットなど生活をより楽しくする作品を考え、工夫を加えて製作することができた。

さらに、卒業前には、お世話になった玉津小学校や先生方、下級生への贈り物として、ミシン縫いを生かして、教室をきれいにするための雑巾とパソコンのキーボードカバーを作り、喜んでもらうことができた(写真8、9)。



〈写真8 キーボードカバー〉



〈写真9 雑巾〉

### 3 成果と課題

家庭科の授業では、特に製作活動に時間がかかり、教師主導の授業になりがちである。それでは、技術の伝達だけに終わってしまい、児童は、主体的に考えることができず、力が付かない。今回の授業では、「マイ防災バッグを丈夫に作ろう」という課題に向かって、ペアやグループで学び合いながら意欲的に取り組み、満足のいくマイ防災バッグを完成させることによって、児童は製作の喜びを味わうことができた。

また、「生活に役立つマイ防災バッグ」を製作し、活用することで、手作りのよさを味わい、授業で習ったことを生かして家や学校でも工夫して作るなど、次への意欲につなげることができた。

しかし、予定していた以上に時間がかかってしまったので、時間をかけて練り合うところと、説明だけで終わらせるところの時間配分を考えていく必要があると思った。縫う順番は、製作計画を立てるときにしっかりと考えさせ、丈夫に縫うための工夫を製作の途中で考えさせるとよかった。また、今回は、無地のキルティングの同じ大きさの市販の布を使ったが、目的に合った布の種類や大きさを一人一人に考えさせてもよかったと思う。

今後も製作の喜びを味わわせながら、生活をよりよくしようとする児童の育成に努めたい。